

平成28年度第2回東金市学校教育問題検討懇談会  
会議要旨

日時 平成28年10月27日（木）午前9時30分から11時45分まで

場所 東金市役所4階401会議室

出席した委員

東谷 仁 城西国際大学国際人文学部特任教授  
高橋 邦夫 千葉学芸高等学校長  
前嶋 里奈 東金市議会議員  
相京 邦彦 東金市議会議員  
宮澤 敬人 源地区会長  
三須 芳雄 東金市区長会連合会長  
鈴木 基正 東小学校PTA学年委員長  
宮崎 孝男 東中学校長  
石川 貢彦 福岡小学校長（敬称略）

欠席した委員

内田 武 東金中学校PTA会長  
岩崎 顯二 丘山小学校PTA会長（敬称略）

事務局

青木教育部長、鈴木教育総務課長、松井学校教育課長、戸田学校教育課副課長、  
鈴木学校教育課学事係長

会議概要

1. 開会(午前9時30分) 司会 鈴木係長
2. あいさつ 東谷会長
3. 報告事項
  - ・事務局から次の内容について説明を行った。
  - ① 保護者代表として委嘱しておりました、松寄委員が平成28年10月1日付で教育委員に任命されたことから、ご本人より現在の懇談会の協議内容にそぐわないのではないかということで辞任したい旨の申出がありました。その内容を受けまして教育委員会として受理・承諾したことを報告した。
  - ② 山武中と山武南中が計画どおりに統合するというので山武市教育委員会から正式な報告を受けたことについて本懇談会に報告した。
  - ③ 東金市の現状について
    - ・区域外就学及び指定変更児童生徒数の現状について  
(主な質疑)  
委員  
このデータは、平成28年5月1日現在のデータで作成したものか。  
事務局  
9月末現在でございます。ただし、入力に間に合っていないものもありますので、  
現在管理されている最新データで作成したということで、ご理解をいただければと思  
います。
    - ・東金市立小中学校の現状等について  
(主な質疑)  
委員

A4縦の資料「区域外就学及び指定変更児童生徒数 集計表」の「指4・教育的配慮」がどういった制度のことなのか教えてください。

事務局

小中学校の指定変更に関する審査基準というのがあります。その中で教育的配慮というのがあります。例えば「学区の学校に特別支援学級がない場合」・「児童生徒との関係で深刻な悩みを持ち、就学校における十分な指導にも関わらず転校を希望する場合」。そういったものが5種類ほどあります。

委員

丘山小で15名、源小で9名、市内で越境している。この推計では見込んでいないのか。例えば、丘山小とか源小に就学すべき人が八街や山武に行っている人は見込んでいないのか。

事務局

減となる部分については、前回の懇談会でも説明いたしましたが、あくまでも減になる率により推計しているため、増減という部分では、確率的なものとして反映されている。

委員

だいたい1学年当り1名～3名くらいとみてよいか。

事務局

そのとおりでございます。

委員

例えば、北中のケースですが、山武南中に各学年、平均すると10名くらい行っている。将来的な中学の北中の30年から31年のところみると、むしろ31年は減少している。平成30年124人で一番多いけれども、その後減少していく。平成29年度が136人でその次の年30年度が144人ということになっている。山武南中に行った生徒が、もしも北中に来るとするのであれば10人くらい逆に増えるのではないかと思うが現実的には減っている。この集計は、山武南中にいっている生徒が、そのまま山武南中に行っているという集計なのではないか。

事務局

この集計については、先ほども申し上げたように率で増減を計算しているということで申し上げましたが、北中の場合は増減率無しで計算しておりますので源地区の方は、北中に全員来るという推計がとれているかと思っています。

委員

それでも減っていくということか。

事務局

そのとおりでございます。

委員

A4判資料・指定変更の資料についてですが、「丘山小から日吉台小」に6名、「東小から日吉台小」13名となっているが、丘山小の6名は黒田の辺りの児童か。また、東小からの13名は松之郷の辺りの児童か。

事務局

そのとおりでございます。

### ③ アンケート調査結果の報告について

・戸田副課長からアンケート調査結果の内容について説明を行った。

(主な質疑)

委員

感触だけでもよいが、中学校の望ましい学級数を聞いた場合に、自分の子どもが行っている中学校、あるいは、これから行く中学校の学級数を選択しているというよう

なケースが多いようにみえるのだが、どうだろうか。学校毎には出ていないのか。

事務局

一応、グラフ自体は学校毎に縦のグラフは出していますが。学区ごとということでしょうか。

委員

自由記載のところの部分では、いかがでしょうか。例えば、自分の行っている学校が、現状なので、そのクラス数は、他の学校に行くことは仕方ないと思っているが、自分の考えとしたら、やはりクラス数が多いほうがいいよ。少人数学校がいいよというようなことがあるのではないか。その辺りの分析は、何かしていないか。

事務局

先ほどの説明と同じくなくなってしまうのですが、例えば源、豊成、比較的少ない学校では、1学級の学年が多いと思いますが、2クラス。比較的大きな学校、例えば鶴嶺や城西では、すでに3学級ありますので、3学級以上を選択する方が多かったかなと思う。特色はでていていると思います。

委員

今、委員が言ったのは、自由記載欄のところ例えば、複式学級を希望するといった意見があったとして、問6-1で23件、これに対して、豊成が何件とか、その他何件、内訳を書きいただけると地域別も分かってよいのではということでもあります。

委員

自由記載の問9のところ自転車で30～40分で7件とあるが、距離で言うとどのくらいになるのか。

委員

以前に測ったことがあるが、9キロメートルくらいである。

委員

全体から見ると少ないが、7人の方が自転車で30～40分までならいいですよという意味なのか。

委員

この帯100%のグラフですと、100人が回答したものと5人が回答したものでパーセントの重みが全部違ってしまいます。たった一人の変動でグラフの大きさが変わってしまう。ここを、余り影響なくうまい表現はできないのかな。

事務局

今回については、学校毎にという形で統計をとったのでこのような形になっている。内部のデータとして項目は、もっていますので様々な統計がとれるのかなと思っている。

委員

例えば、学校名の下に件数を入れられないか。そうすれば何人中の100パーセントということでバイアスをかけながら見ることができる。

事務局

検討いたします。

委員

私の理解不足かもしれませんが、例えば問10のグラフにおいて、その他の意見をみると東金から「ときがね幼稚園」までが非常に多い。丘山は少ないけれども。この東金は、東金幼稚園のことか。ここは、幼稚園の保護者の意見か。

事務局

グラフの「北中」の標記の隣からが幼稚園でございます。

委員

異様に、その他が多いが、何か傾向はみられるか。問11のほうをみても数が多いが。先ほど、委員がおっしゃった分母が少ないから、そう見えるのか。それともそう

ではないのか。特に幼稚園が多い。

事務局

実態のデータを見てみないと分からないが、いま部長からアドバイスをいただいたのですが、「判断できない」といった回答が多かったのかと思っている。あと、全体数が少ないということもあるかと思います。例えば源幼稚園ですと3人の方が「その他」となっているが、全体の分母が小さいので、このようなグラフになってしまっている。

委員

私たちは、アンケート結果を、今見せてもらったところですが、学校教育課さんとしては、アンケート結果を見ての総評としては、どのように捉えているのか。この点は、以外だったとか、意見があればお願いします。

事務局

もう少しクラス数については、少ないほうが選ばれるのではないかと考えていました。また、スクールバスの点ですが、現状でも源や公平地区についてはバスが走っていますが、例えば、大和地区の児童、それも、かなり大網よりの大和だと思いますが、そこから歩いて城西小学校に通っているのでスクールバスを走らせて欲しい。また、2キロメートルを越えたらスクールバス。といった意見もかなりありましたので、スクールバスの需要はかなりあるのではないかと考えている。

委員

もう一度、クラス数のところをお願いします。

事務局

もう少しクラス数としては、小さい規模ものを選択してくるのかなと思っています。先ほども申し上げましたが、例えば豊成小だと1（単）学級の学年が多いことから、2クラスあって、例えば、いじめがあった時には、その子たちを分けてクラス替えができるといった部分への対応が可能ということではないかと思われるが、複数の学級が選ばれていたことについては、意外だった。もう少し1（単）学級でもかまわないという意見が出るのではないかと考えていました。

鶉嶺小は、既に、かなり多い学級数なのに、もっとクラス数が多い方が良いといった意見についても、意外であった。

委員

いじめ問題は、大きいのではないか。

委員

今回の検討懇談会に付託されているというか、小中学校の適正な規模、通学距離、配置の3つが諮問されているわけですが、今回のアンケートの中で通学距離についての質問は少ない。先ほども聞いたように、自転車で30分・40分ということで9キロ・10キロとなるわけですが、そのあたりも、例えば、事故の発生の確率だとか、どのくらいであればスクールバスの準備をするのを検討するだとか、スクールバスも形態が2つあったと思う。運営の委員会が内容をみると性格が2つあったと思う。その辺も、時期を見つけて検討していかななくてはならないのではないか。例えばバスを出すのであれば遠くでもいいですよとかスクールバスを出すのであればいいですよという方もいるのではないか。

そういった辺りも、今日というわけではないが検討していく必要があるのではないかと考えています。質問というか要望でございます。

#### ④ その他の報告事項

以下について事務局より説明を行った。

- ・ 学校別一人当たりの児童生徒にかかる経費
- ・ 大網白里市、部活による就学指定変更

(主な質疑)

委員

経費のことですけれども、国とか県が払っている経費も入っていますか。

事務局

いまの金額は、市単独で支払っている費用です。

委員

一応、国や県が負担している分を加味するとどうなるのか。教員の人件費は、県が負担しているわけですよね。

委員

いまの金額は、あくまでも管理費ですよね。

事務局

計算法といたしましては、明らかに、例えば東金中で購入された消耗品、備品ですとか明確なものについては、それぞれの東金中の中に積算している。一方で学校教育課長や私の人件費というのは、全ての学校に関わるものでございますので児童生徒数で按分して積算しております。また、教育総務課の人件費ですと、幼稚園や生涯学習課、スポーツ振興課とも関係がありますので、こちらも按分し積算しております。

委員

国や県の積算は、直ぐにできるのか。

事務局

手元にある資料としては、超概算ではございますが、県教諭の給料などは、千葉県教育委員会が払っていますので、こちらでは人件費の把握できていません。あくまでも県教員の平均給与により人件費を求めたものを按分したところに、市で払っている金額を合算したのですが、小学校で最もお金がかかっていないのが約50万円、かかっているのが約260万円、中学校で最もかかっていないのが約64万円、もっともかかっているのが約134万円でございます。

あくまでも、概算でございます。よろしく申し上げます。

委員

標準教育費に相当するものだと思います。高校だと私立で年間80万くらい。公立高校で年間100万円となっている。市・県を合算したものが、それに該当すると思う。

市単独の部分に関しては、市民の税金がもろにかかるものだけでも、その中の教育委員会の共通経費は除いていただいて、何々学校に年間いくらかけているというのは出ると思うので次回にでもお願いできればと思う。直接市民が負担している部分ですので、この学校には、いくらで、子ども1人当たりいくらでという形でお願いしたい。多いところと少ないところで、統合してもわからない。